

□ まちの「つながり」プロジェクト (地域コミュニティとソーシャル・インクルージョンによるアプローチ)

高齢の戸建居住の世帯が多く、地域コミュニティ及び連携意識の高いエリアに着目。空き家の「予防」という観点から、大学・地域住民・社会福祉協議会などと連携し、住民がその地域に愛着を持って長く住み続けるための空き家・空きスペースの利活用に関する啓発活動を通じ、ソーシャル・インクルージョン（社会の構成員として包み支えあう）の観点による有効な拠点づくり、利活用の提案による「空き家をリソースにしたまちづくり」のプラットフォーム構築を目指す。

■ 概要

区市町村名	調布市
まちづくりプロデューサー	高橋大輔氏（共立女子大学教授） 菅原大輔氏（建築家）
行政の関わり	調布市がまちづくりプロデューサーを任命。専門家による企画の連携支援を通じ、地域住民との対話による協働事業を推進。
連携先	調布市社会福祉協議会、地区協議会、地域の居場所を考える会など。
対象エリア	富士見町エリア

■ 本年度の取組内容

・トークイベントの実施

今年度は「まちに参加する人を育てる」をメインテーマに、地域づくりの実践者をゲストとして招き、プロジェクトの目標である担い手の発掘と育成につなげる。

・地域拠点の発掘とその運営方法の構築

本事業の対象地域となる富士見町内において、地域の居場所となる拠点空間が見つかったことから、空き家を活用する上でのハード面からの留意点（利用者の安全性確保）、地域住民がその空間を自ら運営していくためのソフト面からの留意点の洗い出しを行い、次年度の本格的運用に向けて環境を整える。

■ 本年度の成果

・担い手育成のためのトークイベントの実施

昨年度はハード面からの空き家活用に関するトークイベントを中心に行ってきたが、今年度は空き家・空きストックを活用し、地域拠点として運営するためのノウハウを習得するための内容で計4回行った。

・地域拠点となる空き家の運営計画

年度末に富士見町地区において地域拠点となる空き家が見つかり、その運営主体や手法について、地域住民、社会福祉協議会などと複数回の議論を重ねた。

・プロジェクト活動の情報発信

昨年度と同様に2021年度の活動記録をまとめた「空き家とまちのつながり」を発行し、年度末の報告会として「これまでとこれから」を開催。地域拠点が運用可能となったことを報告すると共に、その運営者の公募形式による募集を告知した。



2021年度空き家とまちのつながり▲
▲拠点となる富士見BASE外観写真